福山城築城４００年記念

福山名所コンサート

ふくやま　　などころ

第７回 福山藩東部　会場：春日池　福山市

2020 年 11 月 8 日（日）13：30～15：00 実施予定でしたが、新型コロナウイルスの国内における感染拡大の状況を踏まえ、会場変更し無観客で収録編集したものを YouTube「福山城築城 400 年チャンネル」よりインターネット配信致します。

お話「水野氏と福山藩東部の水支配
　　― 干拓地とその農業用水 ―　」
　　佐道　弘之（福山市文化財保護審議会　前会長）

能と尺八のコンサート
　　大島　政允（能楽シテ方　喜多流職分）
　　大島　輝久（能楽シテ方　喜多流職分）
　　大島　衣恵（能楽シテ方　喜多流）
・仕舞「難波」　・仕舞「田村」キリ　・謡ってみよう「福山」

大島　政允

大島　輝久

大島　衣恵

藤原　道山（尺八演奏家）

・鶴の巣籠
・甲乙
・空

藤原　道山

主催／喜多流大島能楽堂　TEL 084-923-2633　http://www.noh-oshima.com

共催／福山城築城 400 年記念事業実行委員会

後援／福山文化連盟　福山喜多会

水野氏と福山藩東部の水支配
― 干拓地とその農業用水 ―

佐道　弘之

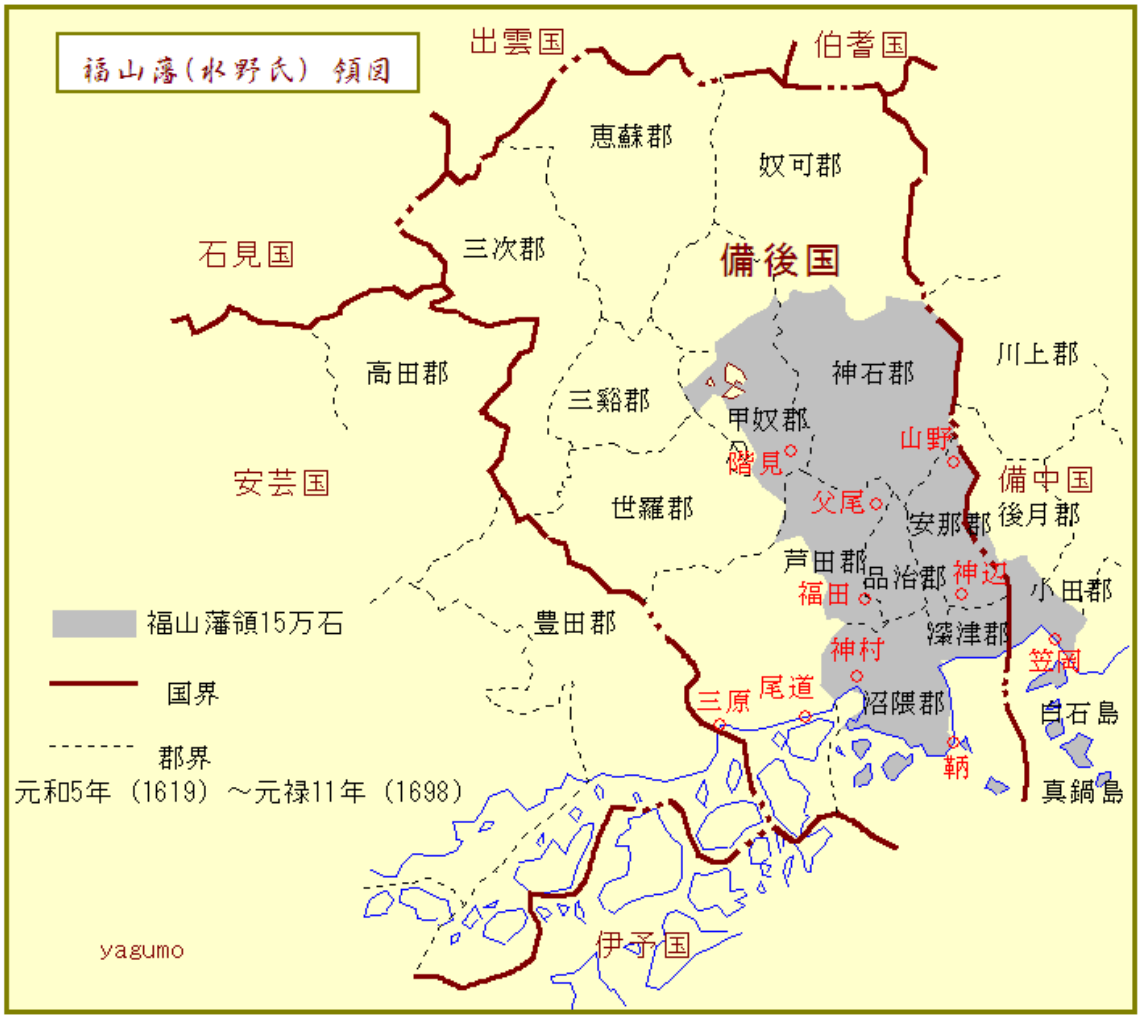
当初、江戸期福山東部地域の開発について、春日池畔で話をとの要請でしたが、コロナ禍のため少し範囲を広めて話すこととする。

１　時 代 相

水野氏が福山藩主となった時代は、〝元和偃武（げんなえんぶ）〟と言われるように、徳川幕府の統治により領地争いをする時代ではなくなり、藩毎に如何に生産力をあげ、民心を安定させるかの時代であった。

福山藩でみると、領内の農地開拓、米のみでなく特産物の生産、寺社の再建、能楽民俗芸能の奨励と現今に通じる多くのものが残されている。

元和５年（1619）水野氏は１０万石の領主として備南統治の役を担って来たが、水野氏断絶までの約８０年間で、１５万石の生産高となっている。これは主に芦田川流域の平野部の治水と遠浅の多い沿岸部の干拓事業によるものである。



２　福山藩の領分

水野氏は〝備後の殿様〟とよく言われるが、備後国を統治されたのではなく、〝福山藩の殿様〟である。では、福山藩領の西は沼隈郡（現在の尾道市山波、高須まで）、北は甲奴・神石郡、東は備中の笠岡（小田郡）、高屋（今の井原市西部～後月郡の一部）の地域である。

水野勝成が１０万石をあたえられて大和郡山から転封する時、尾道か笠岡かの選択に笠岡を選んだのは福山湾岸同様、遠浅の沿岸部が多く、干拓の適地とみたせいであると言われている。

城下町福山の東部地域には、市村（蔵王）、深津、手城、吉田、引野と広大な平野部が展開している。現在は都市化した状況であるが、昭和３０年代までは、稲穂の波打つ広大な水田地帯であった。

目を東に移すと大門沖、笠岡の吉浜（よしはま）・生江浜（おえはま）・富岡、神島（こうのしま）・白石島と、水野氏は藩内各地の遠浅の海岸に干拓事業を展開しているのである。

３　干拓工事など

機械力のない江戸期、堤防づくり、海水の干満に応じる唐樋（からひ）の設置、川の流路変え、用水路の新設等と農民の大動員による大事業であった。芦田川一本化への流路変え、しかりである。大半が勝成の意思を受けた二代勝俊、三代勝貞、四代勝種の時代であり、主導したのは、小場（こば）平左衛門、神谷治部（かんやじぶ）、上田玄蕃（げんば）、本庄重政の土木普請奉行であった。

４　春日池

江戸前半期築造の瀬戸池・春日池・服部大池が、備後の三大池といわれ、春日池は瀬戸池に次いで寛永２０年（1643）に完成している。

面積１,９ha。この立地は東に能島、西に浦上の低丘陵地、前面が吉田沖に接する長い堤防からなっている。地盤の軟弱な地での長い堤防、池の水圧に

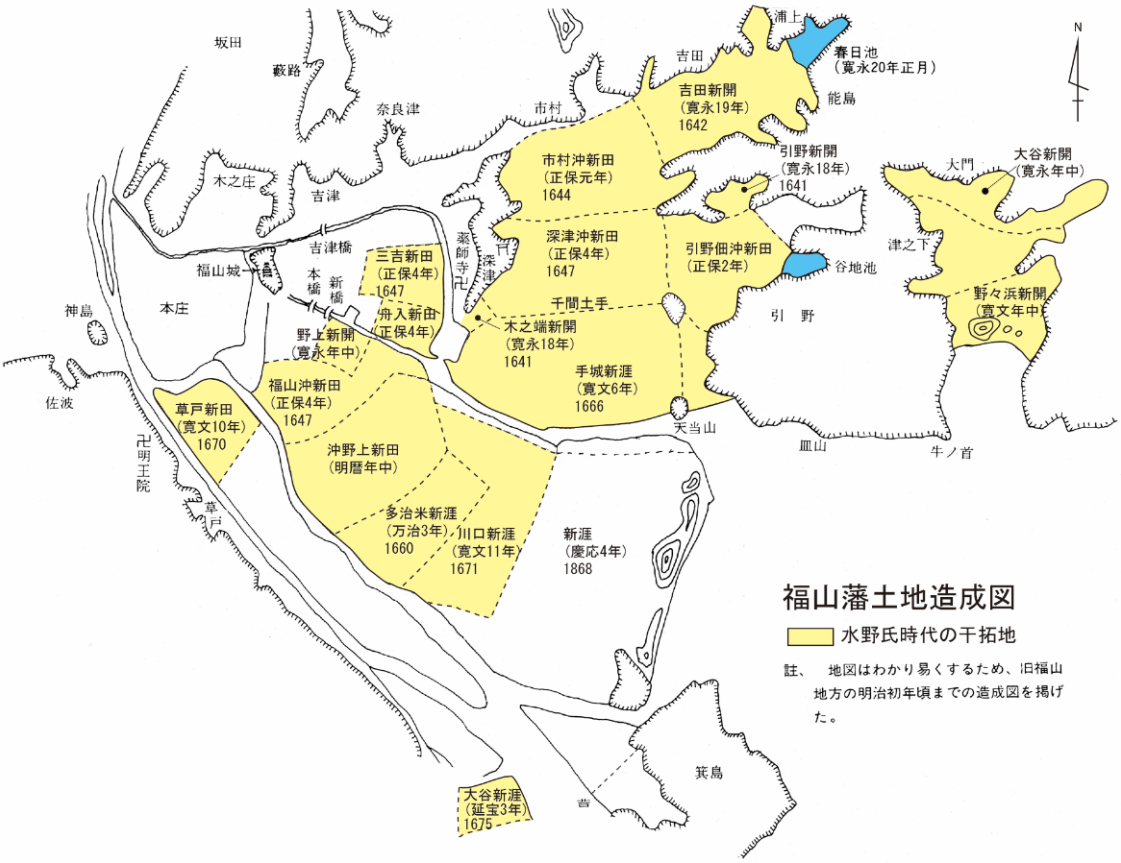
春日池　石敷上手樋（いしじきうてび）（改修時、北東方向から撮影）

2009 年度 春日池の石敷上手樋発掘調査報告書より

応ずべく、堤防は内側へ「く」の字に、また両端に余水吐（上手樋）が設けられ、浦上側の水路は石を敷き詰めるなど（今は大半がコンクリート化）築堤の特異性がみられる。

福山平野の大半が、本庄の高崎（幸崎）から芦田川の引水をして用水としているが、東部地域はこの水と、春日池の水とで補充しあっている。市村・吉田・引野沖の干拓地一帯はこうした恩恵を受けた地域であり、１０万石の福山藩が１５万石と成長した一翼を大きく担った地域なのである。（６尺１間の新竿で測ったので、実質は１３万２千石である）

５　福山藩の領分と石高の変化

元禄１１年（1698）、水野家の断絶により、幕府は１５万石を１０万石とするため、福山藩領の一部を幕府の直轄地「天領」とし、代官所を笠岡と上下に置いた。天領となったのは備中の笠岡、高屋、備後の神石・甲奴・安那（後、深津郡と合併して深安郡）の東部であった。後、神石郡は天領を有する徳川家の娘が、九州中津藩主奥平氏のもとへ嫁ぐにあたり、中津領となり、小畠に中津藩の代官所が置かれた。

一方、福山藩主阿部正弘は幕府の中枢にあって、江戸末期の国難に対処した由により、1 万石の増領（安那郡御領）を得、福山藩は 11 万石となって明治維新を迎えたのである。